

平成23年行政事業レビューシート (文部科学省)

<b>事業名</b>	科学官の運営等	<b>担当部局</b>	研究振興局	<b>作成責任者</b>			
<b>事業開始・終了(予定)年度</b>	平成16年度～	<b>担当課室</b>	振興企画課学術企画室	学術企画室長 伊藤 史恵			
<b>会計区分</b>	一般会計	<b>施策名</b>	Ⅹ-1 学術研究の振興				
<b>根拠法令</b> (具体的な条項も記載)	文部科学省組織規則 第62条第1項・第2項・第5項、第69条の2第1項・第2項・第4項	<b>関係する計画、通知等</b>	第3期科学技術基本計画(平成18年3月閣議決定)				
<b>事業の目的</b> (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	専門的知見を有する大学等の研究者を科学官、学術調査官として採用し、研究現場の実態に即した施策の企画・実施により我が国の学術研究を振興する。						
<b>事業概要</b> (5行程度以内。別添可)	科学官は、学術に関する重要事項の企画及び立案に参画する。 学術調査官は、学術に関する事項についての調査、指導及び助言に当たるほか、研究経験のある専門的知識を持ったプログラム管理者として、科学研究費補助金の一元的管理・評価等を行う。 科学官および学術調査官が上記職務にあたった際の手当(日給)および旅費を支給するものである。						
<b>実施方法</b>	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他						
<b>予算額・執行額</b> (単位:百万円)		20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
	予算の状況	当初予算	37.0	36.9	37.6	33.9	33.9
		補正予算	—	—	—	—	—
		繰越し等	—	—	—	—	—
		計	37.0	36.9	37.6	33.9	33.9
		執行額	38.0	33.9	30.1	—	—
	執行率(%)	102.7%	91.9%	80.1%	—	—	
<b>成果目標及び成果実績</b> (アウトカム)	成果指標		単位	20年度	21年度	22年度	目標値(年度)
	本事業は科学官および学術調査官に対して手当(日給)および旅費を支給するものであり、成果について定量的な指標を用いて示すことができない。	成果実績	—	—	—	—	—
<b>活動指標及び活動実績</b> (アウトプット)	活動指標		単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	本事業は科学官および学術調査官に対して手当(日給)および旅費を支給するものであり、活動について定量的な指標を用いて示すことができない。	活動実績(当初見込み)	—	—	—	—	—
<b>単位当たりコスト</b>	(円/ )		算出根拠	本事業は科学官および学術調査官に対して手当(日給)および旅費を支給するものであり、1単位当たりのコストを記載することはなじまない。			
平成23・24年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由			
	非常勤職員手当	17.8百万円	17.8百万円				
	委員等旅費	16百万円	16百万円				
	計	33.9百万円	33.9百万円				

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、使途・費目	—	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	—	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	—	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	—	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	
	—	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	—	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果		<ul style="list-style-type: none"> <li>政策の企画・立案への参画や調査・指導・助言により、審議会での提言や施策の円滑な実施の形で成果を上げている。</li> <li>メール等を活用した情報収集をもとに審議会の基礎資料を作成するなど、成果を上げる工夫もしている。</li> <li>会議出席状況により不用率が上がる場合があり、より適切な見積もりが課題。</li> </ul>	
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善		<ol style="list-style-type: none"> <li>事業評価の観点：この事業は、研究現場の実態に即した施策の企画・実施に向けて、専門的知見を有する大学等の研究者を非常勤の科学官または学術調査官として委嘱し、その知見の活用を図る長期継続事業である。</li> <li>所見：この事業は、長期継続事業であるが、科学技術・学術政策の企画・立案・実行に当たって現場の研究者の知見と最先端の研究動向を反映する上で不可欠なものである。また、平成21年度レビューの指摘を踏まえ、23年度において予算の縮減を図るなど一定の見直しを図ったことは評価するものの、引き続き、事業の効果的・効率的な実施を目指し、コスト削減等に努めるべきである。</li> </ol>	
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
当該事業の平成22年度の執行実績を踏まえ、科学官、学術調査官の旅費の単価見直し、科学官・学術調査官の業務遂行の工夫・改善を図ることによる会議開催回数等の減により、概算要求に▲2百万円反映した。			
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
<ul style="list-style-type: none"> <li>平成20年度執行率が100%を超えているのは、学術調査官の改選に伴い、地方の大学等に所属する者の構成が増加したことによる委員等旅費の増のため。</li> <li>予算額を上回る執行については、他の事業の予算を流用している。</li> </ul>			

A. 文部科学省  
30.1百万円

非常勤職員手当 16.4百万円  
委員等旅費 13.7百万円

科学官・学術調査官の職務の状況を把握し、給与および旅費を支給する。

資金の流れ  
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する) (単位: 百万円)

費目・使途  
 (「資金の流れ」  
 においてブロックごとに最大の  
 金額が支出されている者について  
 記載する。費目と使途の双方  
 で実情が分かるように記載)

A.			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
非常勤職員手当	科学官・学術調査官の手当(日給)	16.4			
委員等旅費	科学官・学術調査官に支出する旅費	13.7			
計		30.1	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0